



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

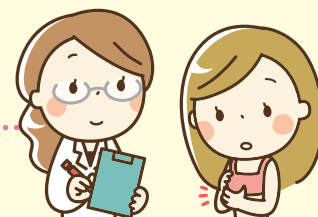
外科(乳腺) 遺伝性乳がんについて

乳がんになった人のほとんどは食生活や生活環境などの多くの原因が関係して発症していると言われています。一方、乳がんになった人の中の5~10%は遺伝的に乳がんを発症しやすい体質をもともと持っていると考えられ、これを**遺伝性乳がん**と呼んでいます。

遺伝性乳がんに関係のある遺伝子はいくつか発見されていますが、よく知られたものとしてBRCA遺伝子があります。この遺伝子に傷がついていると、そうでない人と比べて一生涯中に5~6倍乳がんを発症しやすくなるといわれています。この遺伝子異常が見つかった米国女優のアンジェリーナ・ジョリーさんが乳がんを発症する前に手術をしたという話は耳に新しいと思います。

遺伝子異常を事前に知ることは人によっては良いニュースになるとは限りませんが、検診に積極的に参加することで早期発見につながることにもなります。ただし、我が国では健康な方がこの遺伝子に異常がないかを現在調べることはできません。そこで以下の条件をみたす方は特に積極的な乳がん検診への参加をおすすめします。

- 親、子、姉妹の中に乳がん患者さんがいる女性。
- 祖母、孫、おば、姪に乳がん患者さんがいる女性。
- 若い年齢(おおよそ50歳未満)で乳がんになった近親者(親、子、姉妹、祖母、孫、おば、姪)を持つ女性。
- 両側の乳房とも乳がんになった近親者(上記)をもつ女性。
- 近親者(父、祖父、子、兄弟、おじ)に男性乳がんの患者さんがいる女性。



(乳腺外科 副部長 増野 浩二郎)

患者総合支援センター 入退院支援室

「入退院支援室」のご紹介

当院は、患者さんやそのご家族の治療上の不安や悩みに対応する相談窓口を一元化するとともに、入院前から退院後まで一体的な支援を実施することによる患者サービスの向上のために、本年5月に「患者総合支援センター」を開設しました。当センターでは、専門のスタッフが患者さんの外来受診や入院から退院までの生活を見通して、地域の中で安心して在宅療養生活を送っていただけるように支援いたします。また、患者相談窓口として、患者さんやご家族の不安や悩み、医療制度やがんについての相談など、様々な相談内容に対応いたします。

今回は、患者さんに安心して入院していただくために入院前の説明を担当する「入退院支援室」についてご紹介いたします。

「入退院支援室」では専門の看護師や事務職員が、患者さんごとに必要な情報やご希望、不安などを把握し、入院目的に沿った説明を行います。入院生活のスケジュール表やパンフレットを使用し、患者さんにわかりやすい説明に努めています。入院前から退院後の生活上の注意点や準備について一緒に考えることで、患者さんやご家族が安心して入退院できる環境を整えていきます。必要な場合は、他の専門の知識を持った職員とともに、患者さんにとってより良い療養生活を送れるよう調整いたします。また、患者さんの入院日に再度患者さんと話しあい、入院前の準備が整っているか確認をいたします。

入院生活での不安や質問などがございましたら、入院前の説明面談の際にお気軽にご相談ください。県病での入院、その後の療養生活を快適に過ごせるよう親身になって支援いたします。

予約入院の流れ

外来で入院予約



外来で入院の方針が決まったら、「患者総合支援センター」へお越しいただき入院説明を聞いていただきます。

患者総合支援センター 入退院支援室

受付



事務職員が入院当日の必要物品や病院の設備などについて説明します。

入退院支援室 看護師の面談



病歴や入院までの経過、日常生活の状況、アレルギーの有無などを伺い、検査・手術・治療などについて説明します。

多職種で情報共有



専任の看護師、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多分野の専門職が関わり、退院後の支援の必要性についても協議します。

入退院支援室看護師



入院病棟の看護師と面談で得られた情報を共有し、できる限り患者さんの希望に沿った退院支援につなげます。

病棟看護師



面談後は・・・

(患者総合支援センター 入退院支援室 室長 宇都宮 徹 / 看護師長 坂井 綾子)